

九州北部地方（山口県を含む）の降水量が 多くの地点で7月としては最も多くなりました

九州北部地方（山口県を含む）では、110^{*1}地点中47地点で、7月の月降水量が統計開始以降、最も多くなりました。

- 九州北部地方（山口県を含む）では、記録的な多雨となりました。
特に佐賀（佐賀県）や牛深（熊本県）、日田（大分県）などでは、7月としては平年の3倍を超える降水量となりました。（別紙1～3参照）
- 九州北部地方（山口県を含む）における7月の地域平均降水量平年比^{*2}は、統計開始（1946年）以降、最も多くなりました。

	今年 2020年	これまでの1位 1957年	これまでの2位 1982年	昨年 2019年
7月の 平年比 (%)	254	225	218	134

経年変化等は、別紙4を参照してください。

- 降水量が多かった要因は、梅雨前線帯に沿って、中国大陸から流れ込む湿った空気と太平洋高気圧の縁辺を流れる南からの湿った空気が、日本付近で合流しやすい状況が続いたからと考えられます。（別紙5参照）

^{*1}九州北部地方（山口県を含む）の観測地点のうち、統計期間が10年以上ある観測所を対象としています。

^{*2}地域平均降水量平年比は、いつもの年（平年値：1981～2010年の平均）と比べてどのくらい多い・少ないかを地域全体でみるもので、統計期間が50年以上ある観測所を対象としています。九州北部地方（山口県を含む）では、雲仙岳を除く16地点における降水量の平年比を平均して算出しています。

問合せ先：福岡管区気象台気象防災部

観測値について：防災調査課（蛇嶋） 092-725-3614

要因について：地球環境・海洋課（川口）092-725-3613

表 2020年7月の月降水量の多い方からの極値を更新した地点
(統計期間が10年以上の観測所を対象)

県 (地点数)	観測地点	月降水量 (mm)	平年値 (mm)	平年比 (%)	7月の これまでの1位		統計開始年
					月降水量 (mm)	年	
山口 (3)	羅漢山	993.0	365.9	271	705	1997	1976
	鹿野	829.0	—	—	538.0	2012	2010
	広瀬	760.5	349.2	218	721	1993	1976
福岡 (9)	空港北町	632.5	—	—	593.5	2009	2006
	早良脇山	836.5	—	—	788.5	2018	2010
	朝倉	1149.5	354.1	325	902.0	2012	1976
	英彦山	1310.0	421.6	311	907	1997	1989
	久留米	1153.0	329.4	350	890.0	2012	1977
	耳納山	1309.5	359.0	365	1241.5	2012	1976
	黒木	1238.5	378.5	327	1159	1980	1976
	柳川	1145.0	338.3	338	787	1982	1976
	大牟田	1295.5	373.5	347	1109	1997	1976
	佐賀 (8)	唐津	815.5	—	—	479.0	2012
北山		1153.5	—	—	850.5	2018	2010
鳥栖		1328.0	—	—	759.5	2012	2010
伊万里		1025.0	359.7	285	895	1982	1976
佐賀		1086.0	338.5	321	896.6	1931	1891
嬉野		1094.0	390.9	280	920	1980	1977
白石		880.5	327.8	269	780	1980	1976
長崎 (8)	川副	1057.0	333.3	317	581.5	2012	2003
	鱈浦	805.5	291.9	276	523	2003	1996
	石田	822.5	377.4	218	542	2006	2003
	松浦	949.0	—	—	436.5	2018	2011
	有川	918.5	314.5	292	755	1982	1977
	大村	978.0	315.2	310	892	1982	1976
	諫早	1157.0	393.7	294	1122	1982	1976
	島原	1011.5	—	—	690	2006	2006
野母崎	598.0	215.8	277	527	1993	1991	

値の横に)や]がある場合は、月別値を求める際に使用したデータ(日別値)に欠測等が含まれていることを示す。)付きの値(準正常値)は通常のものと同様に扱うことができる。—は平年値がないことを示す。アメダス観測所では2008年までは1mm単位で観測。

県 (地点数)	観測地点	月降水量 (mm)	平年値 (mm)	平年比 (%)	7月の これまでの1位		統計開始年
					月降水量 (mm)	年	
熊本 (11)	鹿北	1342.0	437.9	306	1109	1982	1976
	岱明	963.5	315.9	305	868	1997	1976
	菊池	1005.0	371.6	270	986	1997	1976
	益城	923.5	509.7	181	881	2006	1976
	宇土	767.0	—	—	592	2007	2006
	山都	1214.0	—	—	613.0	2019	2010
	山江	1360.5	510.3	267	1196	2006	1991
	上	1247.0)	485.0	257)	1220	1982	1977
	多良木	1299.0	—	—	796	2006	2006
	湯前横谷	1559.5	589.9	264	1399	1993	1976
	牛深	1342.0	309.7	433	818.3	1954	1949
大分 (8)	中津	803.5	—	—	487.5	2012	2011
	耶馬溪	1007.5	331.4	304	947.0	2012	1976
	院内	740.5	287.1	258	668	2007	1976
	杵築	689.0	252.3	273	587	1982	1978
	武蔵	587.0	248.6	236	549	2007	1976
	日田	1034.5	333.4	310	1014.5	2012	1943
	玖珠	893.0	349.9	255	799.5	2012	1976
	椿ヶ鼻	1715.0	—	—	1115.0]	2012	2005

値の横に) や] がある場合は、月別値を求める際に使用したデータ(日別値)に欠測等が含まれていることを示す。)付きの値(準正常値)は通常のものと同様に扱うことができる。—は平年値がないことを示す。アメダス観測所では2008年までは1mm単位で観測。

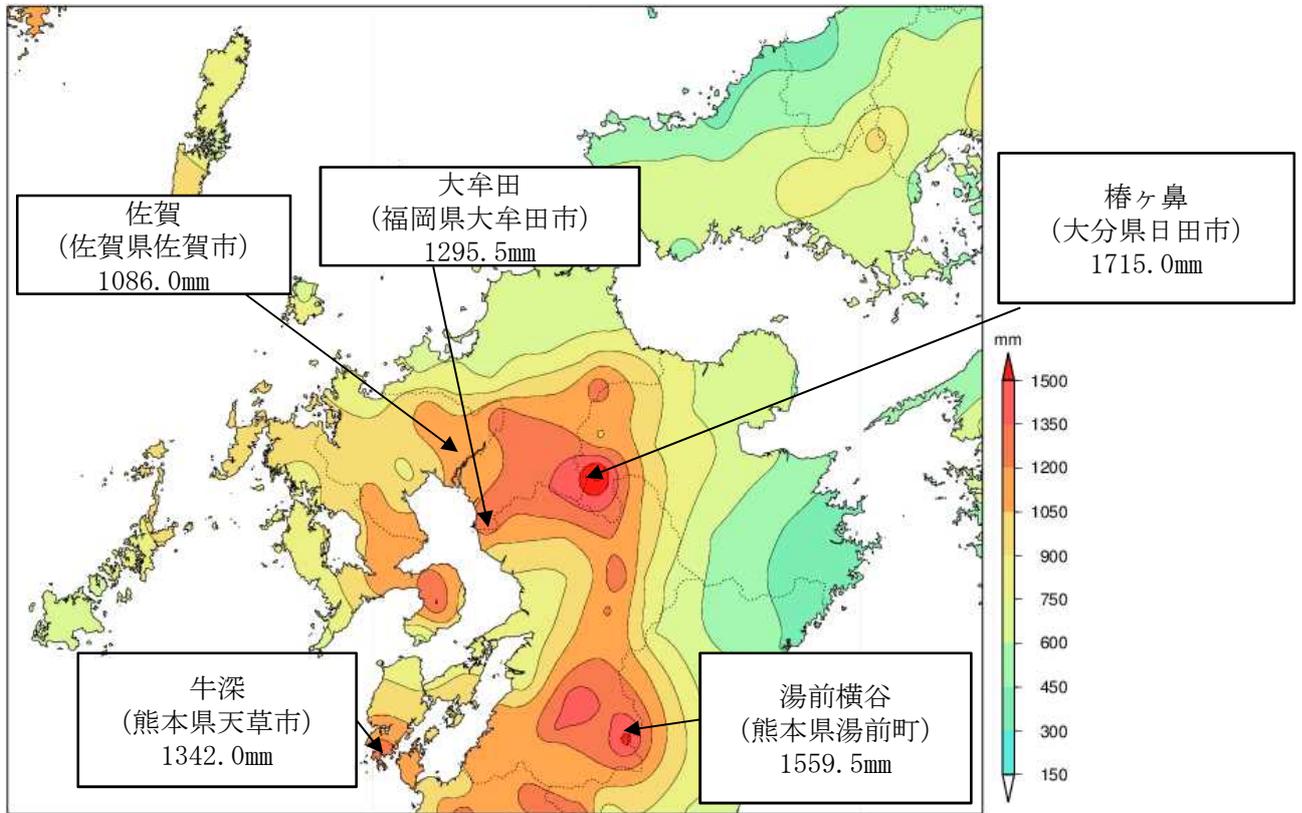


図1 2020年7月の月降水量分布図

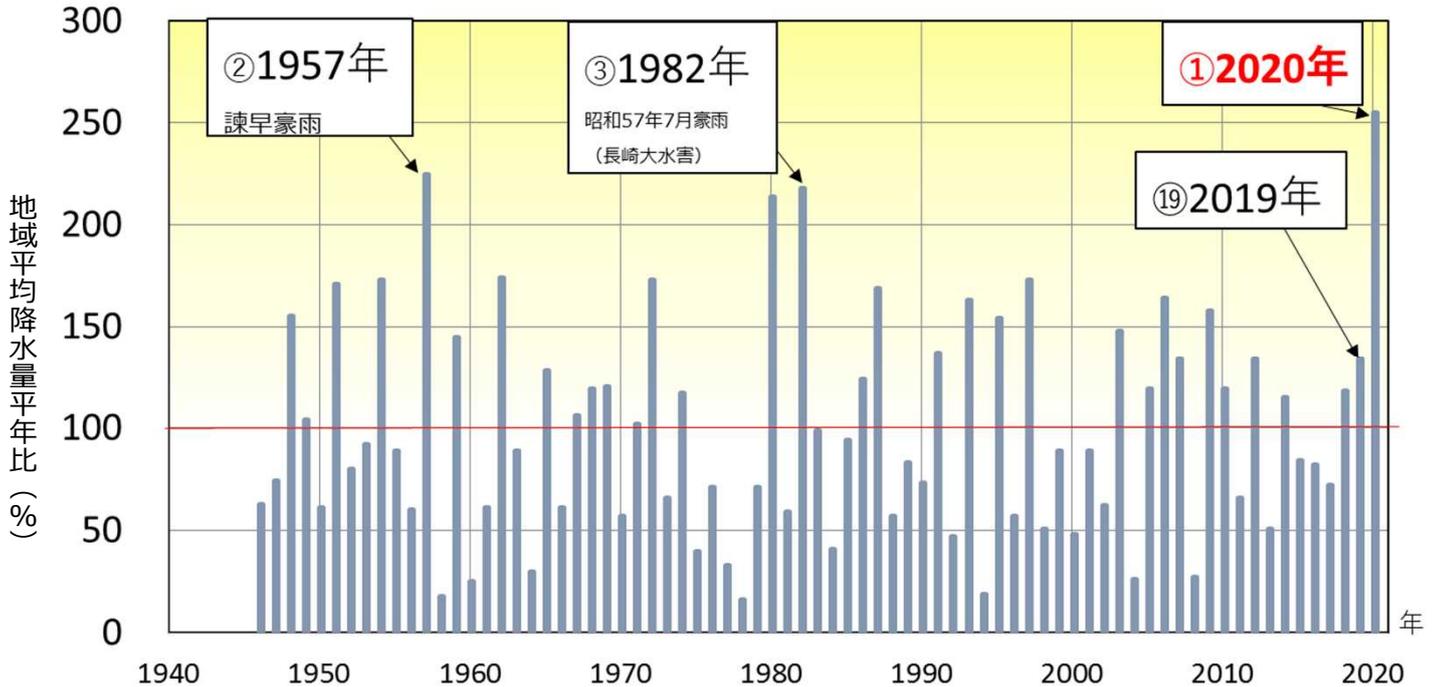


図2 九州北部地方（山口県を含む）の7月の地域平均降水量平年比※の経年変化
 （統計期間：1946年～2020年）（西暦の前の丸付き数字は統計期間内の順位を示す）

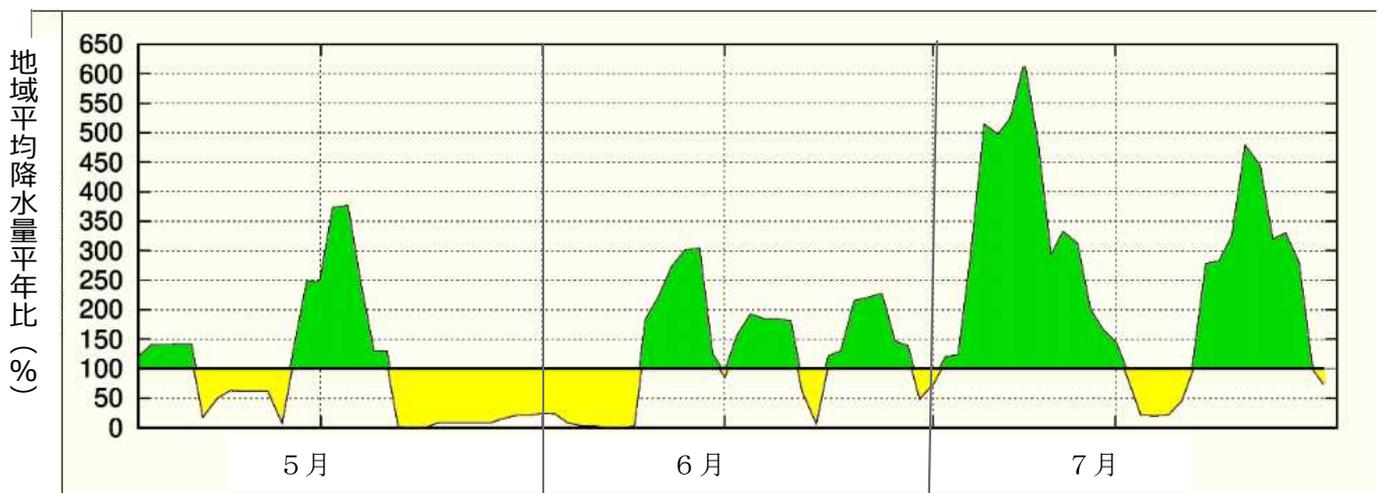


図3 九州北部地方（山口県を含む）の地域平均降水量平年比※の時系列図（5日移動
 平均値）（2020年5月～7月）

※地域平均降水量平年比は、いつもの年（平年値：1981～2010年の平均）と比べてどのくらい多い・少ないかを地域全体でみるもので、統計期間が50年以上ある観測所を対象としています。九州北部地方（山口県を含む）では、雲仙岳を除く16地点における降水量の平年比を平均して算出しています。

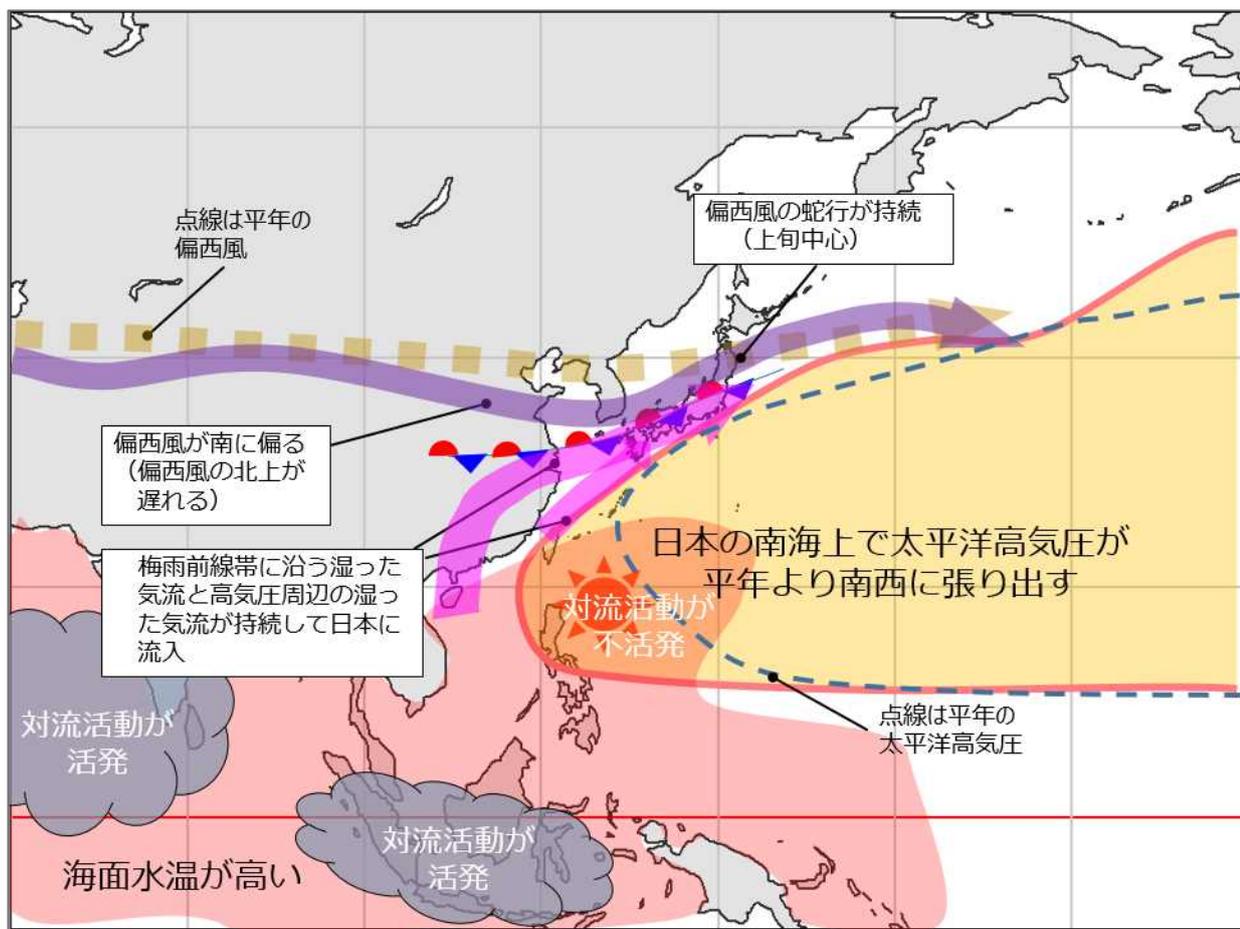


図4 2020年7月の平均的な大気の流れの模式図

【降水量が多かった要因】

- 梅雨前線帯に沿って、中国大陸から流れ込む湿った空気と太平洋高気圧の縁辺を流れる南からの湿った空気が、日本付近で合流しやすい状況が続いたからと考えられます。
- 梅雨前線が本州付近に停滞しやすかったのは、偏西風が北上せず（平年より南に偏り）日本海沿岸にとどまったためと考えられます。
- また、日本付近に高気圧周辺の湿った空気が入りやすい状況が続いたのは、月を通して太平洋高気圧が日本の南海上で南西に張り出す状態が続いたためとみられます。
- 高気圧が南西方向に張り出したことには、インド洋で海面水温が高く、対流活動が活発となったことが影響しているとみられます。